

螢石

霖投哀良

急行は景色を引き裂いていく
市街からこの身を引き剥がすように
ビルの明かりを見失って
帰り方がわからなくなった
毎日生きることは地獄で石を積むようなもの
ここではみんな思考が止まったまま、
死んだ言葉で脅そうとする
私を見つめて干渉してる

こんなところにいるなんて、でも
身体はどこにも行かない 私はここにいる
どこへでも行ける魂ひとつぶら下げて

夜を手練り寄せここでは皆自分を甘やかす
生きれば生きるほどに傷つけている
ビルに飲まれてしまう気がしてる
いつも何かが怖い

信号も人も休まずに、私を追い立てる
今日もなんとか生き延びた
皆、帰る場所があるらしい
街は人目をぬすんで表情を変える
ああ、こんなところにいるなんて

出て行けと言うのは簡単だ
浅い思考を自分の物差しをただ、
押し付けることは暴力に過ぎない
私はここにいる 太々しく居座っている
どこへでも行ける魂にぶら下がって